

科目区分：学校教育実践コース（家政教育専修），生活環境コース

授業科目名：食品学演習（2014）

食品に関する欧文論文輪講および論文紹介の実践（4年目）

家政教育講座 岡本威明

1. 授業の概要とねらい

授業科目「食品学演習」は，食品に関する論文の輪読および発表をすることで，生活者として必要な食品に関する基礎知識を習得し，また最新の論文を選択・発表し，質疑応答をするための能力を身につけることである。また，卒業研究に繋がる講義を目指すことをねらいとした。さらに，食品関連の工場見学を実施し，製造，販売，研究等の流れを体感させる。

2. 受講生について

受講生は3回生家政教育専修より1名，生活環境コースの3回生が8名，4回生が2名登録し，合計11名の受講があった。教員個別の授業アンケートは最後の授業時間に実施し，10名分を回収し分析した。

3. 今年度授業の取り組み

学生による欧文論文輪読および論文紹介発表を効率良く遂行するために，受講生を2班（A, B）に分けて編成し，下記のスケジュールにて16回の授業を構築した。

第1回 ガイダンス、班分け

第2回～5回 欧文論文輪講（A班）

第6回～7回 論文発表会（B班）

第8回～11回 欧文論文輪講（B班）

第12回～13回 論文発表会（A班）

第14回～15回 工場見学（伯方の塩工場：大三島）

第16回 欧文論文英訳試験（A, B班）

4. 授業アンケートの質問事項

授業アンケートは，記述式（8項目）に分けて行った。

- 1) 欧文論文輪講に関してどうでしたか？
- 2) 各種学会誌から論文を選択し発表したことに對し，どのように思いましたか？
- 3) 各種学会誌から論文を選択し，発表したことに對してどう思いましたか？
- 4) 他の学生の論文発表を聞いてどのよう

に思いましたか？

5) 伯方の塩工場見学はどうでしたか？

6) 本講義内容は，これからの卒業研究に生かすことができそうですか？

7) 時間外学習時間はどれくらいでしたか？

8) 食品学演習全体を通しての感想と来年度の講義に向けての改善点等を明記して下さい。

5. 授業アンケートの結果

1)の質問結果：

- ・英語の論文をみると今までは難しいものだと判断していたが，今回の活動で和訳し終えたときの達成感を味わうことができた。今後，時間ができたら自分の関心ある内容で訳してみたいと思った。
- ・英語が苦手ですごく抵抗がありましたが，読み進めていくうちに少しずつですが読めるようになっていき少し免疫がついたと思います。
- ・同じような構文が用いられており，図やグラフから読み取れることも多かったのもう少し難しいものにチャレンジしてみたいと思った。

2)の質問結果：

- ・食に関して自分の興味を持つ内容を選択することができたので意欲的に取り組むことができた。
- ・自分の専門分野以外の論文を読む機会が少ないので，この機会に読むことができよかったです。論文を時間内に要約して伝えるのは難しかったが，うまくまとめる練習ができたと思う。
- ・論文を丁寧に読み解くスキルが身についた。

3)の質問結果：

- ・発表の仕方について他の学生の良いところを参考にさせてもらい，評価をつけることでより発表を聞く側としてもわかりやす

い発表にしようとして臨む姿勢につながりました。また、内容としても様々な分野の論文を聞くことができ参考になりました。

- ・難しい論文等もアニメーションやイラストを用いてわかりやすく説明してくれたので自分で読み解くよりも容易に理解することができた。

4)の質問結果：

- ・自分たちの地元愛媛県から出ているものとして実際に目で見ることができよかったです。特に塩の伝統の作り方を守ろうとしてきた努力がなされてきたことを知り感動しました。

- ・流下式枝条架塩田を再現し「されど塩」を作ることにこだわっており、にがりを重視しているのか理解できました。

5)の質問結果：

- ・塩の多くは衣類にも使用されているということで、これを機会に塩の詳しい衣類への使われ方を調べたいと思いました。

- ・時間内にわかりやすく発表すること、また質疑応答の練習などができ、その経験はとても生かせると思います。

6)の質問結果：

- ・**時間外学習時間**に関して、**欧文論文**に対しての総時間は、最大 28 時間、最小 2 時間で、**平均 8.8 時間**であった。**論文発表**に対しての総時間は、最大 10 時間、最小 3 時間で、**平均 5.8 時間**であった。

7)の質問結果：

<良かった点>

- ・授業を聞くだけのスタイルではなかったので毎時間楽しかった。

- ・他の授業と比較しても授業の中で得られる知識の難易度が高いのでとても興味深かったです。

- ・英語論文を訳すという他にはない内容だったのでとても面白かったです。

- ・来年も是非、論文発表はしてほしいと思います。論文を探す段階だけでもいろんな論文と出会うことができ楽しかったです。

- ・多様な論文に触れ知識が広がり良かったと思う。

- ・英訳や発表準備は大変だったが、その分

スキルも向上したと思う。

<反省点>

- ・論文を訳す方は時間が足りないと思うのでレベルを下げるか範囲を狭くする方がよいと思った。その分、内容を少し詳しく解説してほしいです。

- ・英語の論文は、もっと様々な内容のものを読みたかった。短文を沢山読むのが良いのではないかと思った。

- ・二つの班の間で学習に差が出てしまったので、班分けの際に考慮する必要があると思う。

6.成績評価に関して

欧文論文輪講に対する予習や欧文の発音・和訳発表ならびに論文紹介に対する予習や発表等を総合的に評価して成績とした。「秀」の評価を得た学生が全体の45%であり、「優」の評価を得た学生は全体の36%であった。全体的に非常に講義には真面目に取り組んでおり成績もよく、欠席も少なかった。

7.総括

今年度は履修者が11名であったため、6名と5名の2班に分けて、欧文論文輪講と論文読解・発表を交互に遂行した。3回生および4回生に対し、欧文論文を輪講するという挑戦的な講義を試みているが、時間外学習時間の調査結果から、学生も予習に多くの時間(平均8.8時間)を割いており、講義時には何の支障も無く輪講が進められた。しかし、二つの班の間で欧文論文輪講の進行スピードに差が出た。その理由として、学生間で英語の読解能力に差があり、さらに班を形成したことにより、そのことが表面化したものと思われる。他方、3回生後期には、卒業研究を見据えた講義の構築も可能であり、その必要性も改めて認識することができた。全4回の輪講で、A班は論文一報を読破することができ、学生自身も達成感を感じたようである。また、論文発表においても、時間外学習時間の調査結果からも推察できる通り、非常に完成度が高く、学生間で活発な質疑応答が成された。本授業が4回生での卒業研究に生かされることを期待している。